

科目区分：学校教育教員養成課程中等教育コース音楽教育専攻
授業科目名：ピアノ伴奏法（1）
対象年次：3年次（重複履修可）

「ピアノ伴奏法（1）」の授業評価報告

音楽教育講座 福富 彩子

1. 授業の目的

本授業は、中学校・高等学校の音楽科の授業で求められるピアノの実技能力や指導力を育成することを目的としている。また、他者と演奏を共にすることで互いの音を聴き合い、合奏する喜びを共有し、音楽表現を探究するためのコミュニケーション能力を高めることを目的としている。

2. 到達目標

- (1) ピアノの演奏法や表現法を応用発展させ、学校現場や音楽教育の場において対応できるピアノ伴奏力を身につける。
- (2) それぞれのパートの役割を理解し、相手の音と自分の音とのバランスを聴きながら演奏することができる。
- (3) 基本的な和音進行を理解し、簡単な旋律に和音や伴奏を付けて演奏することができる。

3. 授業の概要について

3-1 受講者と実施方法

「ピアノ伴奏法（1）」は、中等教育コース音楽教育専攻の専門科目として3回生前期に開講されており、4回生（前期）まで重複履修が可能である。2021年度後期の登録学生数は4名であった。本授業は、新型コロナウイルス感染症に対するBCPに応じて一部遠隔で実施したが、実技演習は徹底した感染対策を講じて対面で行った。なお、器楽曲のピアノ伴奏や歌唱を含む活動は制限して行った。

第13回目授業（2021年7月21日）が愛媛大学ホームページの授業紹介 I Report に掲載された。

https://www.ehime-u.ac.jp/data_tuition/data_tuition-170057/

3-2 各演習の概要について

本授業では、次の(1)～(4)の演習を中心に行った。各演習の概要を以下に記す。

- (1) 中学校の歌唱共通教材7曲のピアノ伴奏
- (2) ピアノ曲の初見演奏
- (3) キーボード・ハーモニー
- (4) ピアノ2台によるアンサンブル

(1) 中学校の歌唱共通教材7曲のピアノ伴奏

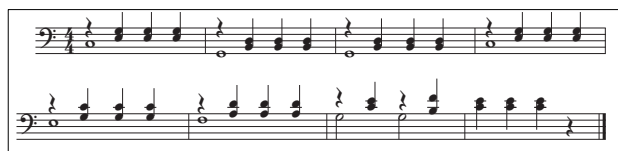
本演習は、歌唱授業におけるピアノ伴奏のあり方を学び、実践に活かせる実技力を身につけることを目的としている。受講者は中学校の歌唱共通教材全7曲のピアノ伴奏と弾き歌いに取り組み、各曲の分析を通して音楽の要素等と関連付けながら演奏表現を深めた。

(2) ピアノ曲の初見演奏

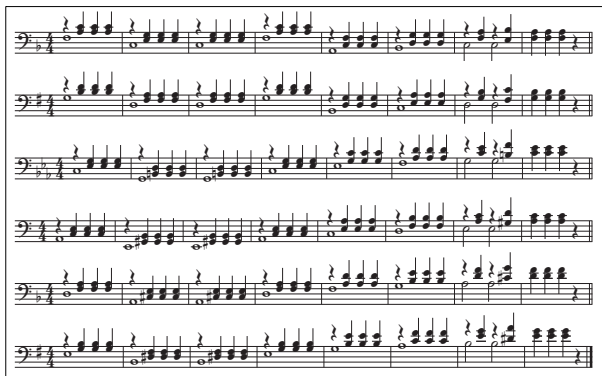
初見演奏は、音楽の基礎的能力を養うために重要である。本授業では、16小節程度のピアノの新曲課題を1分程度予見してから演奏してもらい、演奏後に楽曲の流れや和声進行、調性、楽曲構成を確認して再度演奏してもらった。このプロセスを重ねることにより、譜面を見て音楽（音）をイメージする力や読譜能力の向上を図った。

(3) キーボード・ハーモニー（和音付・移調伴奏）

キーボード・ハーモニーとは、旋律に適した伴奏を基本的な和音進行、あるいは楽譜に記されたコードに沿って即興で演奏するものである。本演習は、平易な和音付や初見演奏、移調奏の習得に加え、楽曲の成り立ちの基本も学ぶことができるため、鑑賞授業や創作授業にも活かされるものとする。授業では、バス・和音の定型（カデンツ）についてスライドに映写して説明し、ステップを踏んで和音付演習を進めた。次の譜例は、バス・和音の定型（一部）である。



譜例 1：八長調のバス・和音の定型



譜例 2：各調のバス・和音の定型

(4) ピアノ 2 台によるアンサンブル

ピアノを含むアンサンブルには様々な形態があり、歌唱伴奏や器楽伴奏、ピアノ以外の楽器との室内楽、ピアノデュオなど様々である。今回は、ピアノ 2 台の作品を取り上げて演奏し、2 人での練習・合わせをどのような方法で行うかなどアンサンブルの過程を学ぶことを目的とした。

受講者の演奏楽曲は、モーツァルト作曲 2 台のピアノのためのソナタ K. 448 の第 1 楽章とブラームス作曲ワルツ Op. 39 であった。アンサンブルを体験し学習することで、音楽科の授業における表現領域の指導や、合唱・吹奏楽などの音楽系部活動の指導にも活かせるものとする。本授業では、受講者同士の課題意識の共有を促し、それらの課題を解決するための観点や方法について話し合ってもらい、必要に応じて適宜介入を行った。

4. 授業アンケートの結果について

本授業終了時に実施したアンケートの結果について、以下に示す。(1)授業外学習時間に関するアンケートでは、各受講者が週平均 1 時間～6 時間程度取り組んでいると回答した。受講者の平均は 4 時間であった。また、(2)～(5)の授業に関する独自のアンケート（4 段階評価）では、すべての質問について受講者全員が「とてもそう思う」と回答した。

(6)は自由記述式によるアンケート結果である。

(1) 授業外学習時間について（週平均）

受講者	この授業で出された課題や予習・復習のために、授業時間外に費やした学習時間（一週間の平均）	この授業で出された課題や予習・復習をおこなうこと以外の理由で、この授業に関連して時間外に費やした学習時間（一週間の平均）	合計時間（週の平均）
A	4	2	6
B	3	2	5
C	1	0	1

(2) この授業の課題・進度は適切でしたか。

1 とてもそう思う	4名
2 ある程度そう思う	0名
3 あまりそう思わない	0名
4 そう思わない	0名

(3) 自己課題を明確に持ち、この授業に参加することができましたか。

1 とてもそう思う	4名
2 ある程度そう思う	0名
3 あまりそう思わない	0名
4 そう思わない	0名

(4) 自己課題に対する改善方法を探求・実践し、目標を達成することができましたか。

1 とてもそう思う	4名
2 ある程度そう思う	0名
3 あまりそう思わない	0名
4 そう思わない	0名

(5) 毎時の課題（演奏）について、フィードバックや助言を得ることができましたか。

1 とてもそう思う	4名
2 ある程度そう思う	0名
3 あまりそう思わない	0名
4 そう思わない	0名

(6) 記述式アンケート（感想・意見）

この授業に対する自由なご感想やご意見があれば記入してください

2台ピアノは初めての挑戦で、2台ならではの難しさ、練習方などを実感することができ、とても楽しかったです。また、授業を通して慣れていった基本的な伴奏形を今後活かしていきたいと思えます。ありがとうございました。

伴奏付けや初見、歌唱共通教材伴奏から2台ピアノまで、広くたくさんのご意見をいただきありがとうございます。何よりも福富先生と2台ピアノができたことが、本当に嬉しくて楽しくて仕方ありませんでした。いろいろな課題を見つけることができ、自分の力につながったと思います。伴奏法を受講して良かったです。

中学校共通歌唱教材の伴奏や和音付け、キーボードハーモニーの学習の他に、2台ピアノでのアンサンブル活動も経験でき、非常に充実した学びとなりました。ありがとうございました。

5. まとめ

本授業で実施した複数の演習は、音楽科の授業で活用できるものであり、愛媛県教員採用試験（音楽）の実技試験にも一部対応していた。これらの背景もあって、教員を志望する 3・4 回生の受講者全員から「自己課題を明確に持ち、それらの課題に対する改善方法を探求・実践して目標を達成することができた」との回答が得られたものと推察できる。

各演習課題は相互に作用し合って技能向上に繋がるものとする。また、これらの演習を継続して実践することで応用的な力の育成が期待できるため、今後は、他の実技・演習科目とも連携できる授業内容も検討し、習熟度別・段階別の演習課題の作成も行っていきたいと考えている。